

コスモス ニュースレター EMC & 安全

Cosmos Newsletter on EMC & Safety

発行日 2024-08-01 No. 166

株式会社 コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地-1

<https://www.safetyweb.co.jp/>

記事の配列は、概ね、国際規格を最初におき、米、欧、オセアニア、アジアの順です。

コスモス ニュースレター EMC & 安全 目次

エグゼクティブサマリー Executive Summary	2
IEC: 電動車両におけるバッテリーの安全性の重要性: e-tech 情報	3
IEC: IEC、改善されたウェブストアを新設	5
IEC: EU: 欧州機械規制 2023/1230 は取扱説明書のデジタル化オプションを提供	6
IEC: 新規格リスト	7
ISO: 新規格リスト	12
UNECE: ペダルの踏み間違い、電動車両向けの新世代ブレーキシステムの導入を先導する	13
UNECE: 車両規制の調和に関する世界フォーラム第 193 回報告書が発行(1/2)	14
国際テーマ: IEC: 原子力エネルギーは気候の救世主か?	17
国際テーマ: N マーク認証の意義の変化	18
国際テーマ: エジプト: 通信機器の手続きの最新情報: 知っておくべきこと	18
国際テーマ: アラブ湾岸地域の G マーク制度の拡大	19
国際テーマ: サウジアラビア、携帯型電子機器の充電ポートの統一を義務化	19
国際テーマ: コスモス・ニュースから各国認証関連情報を再掲	20
USA: FCC: 自動車安全スペクトラム規則を採決へ: C-V2X 技術を、5.9 GHz 帯域で運用	21
USA: FCC: KDB: Part 90, 95: C-V2X システムを利用しているデバイスの機器認可手続き	22
USA: FCC: KDB: TCB が機器認可を授与する前に、FCC のガイダンスが必要なデバイス	22
USA: FDA: 1997 年米国食品医薬品局近代化法: 認知規格リストの変更、認知リスト番号: 062	24
USA: FDA: リマインダー: レーザノーツ No. 56 への移行の準備を	24
USA: DOE: 省エネプログラム: 最近の連邦官報による通知	25
USA: ANSI/UL: 新規格リスト	26
USA: IEEE: 新規格リスト	27
カナダ: ISED: RSS-210 第 11 版 — 免許不要無線機器: カテゴリー I 機器を発行	28
カナダ: ISED: RABC: RSS-248 第 3 版 — 5925~7125 MHz 帯域 RLAN デバイス	29
EU: 持続可能な製品のエコデザイン規制(ESPR)発効: 持続可能な製品が消費者の標準となる	31
EU: 委員会実施規制(EU) 2024/1721: インテリジェント速度支援システム等のテンプレート	33
EU: CENELEC: 新規格リスト	34
EU: ETSI: 新規格リスト	36
オーストラリア: AS/NZS 新規格リスト	36
中国: CNCA: 電動自転車用リチウムイオン電池及び充電器の強制性製品認証管理 CCC の実施	37
中国: CQC: 電気電子製品用スイッチの安全認証規則に関する通知	38
中国: CQC: 遠心スイッチの性能認証の新版認証規則の実施に関する通知	39
中国: CQC: 電力変圧器の省エネ認証に関する新版規格及び認証規則の実施についての通知	39
中国: 新規格リスト	40
台湾: 新規格リスト	41
韓国: RRA: 簡易無線局・宇宙局・地球局の無線設備等の業務用無線設備の技術基準改正	42
韓国: RRA: 「放送通信機資材等の適合性評価に関する告示」一部改正通知	42
韓国: KS 新規格リスト	43
総務省: 自動運転時代の“次世代の ITS 通信”研究会 (第二期) 中間取りまとめ (案) 意見募集	44
総務省: 「ローカル 5G の海上利用に係る技術的条件等」— 情報通信審議会からの一部答申 —	44
総務省: 令和 6 年「情報通信に関する現状報告」(令和 6 年版情報通信白書) の公表	45
経済産業省: 日本発の「電池リパーパス」に関する国際規格が発行: IEC 63330-1	45
経済産業省: 新しい生体認証精度評価方法に関する国際規格が発行: ISO/IEC 5152	46
経済産業省: エネルギーの今がわかる! エネルギー白書 2024	46
経済産業省: 日本産業規格 (JIS) を制定・改正しました (2024 年 7 月分)	47
国土交通省: 自動運転車の安全ガイドラインや EV 等のバッテリー耐久性能の国連基準を合意	47
ちょっといっつく〜小クイズコーナー サウジアラビアの携帯型電子機器の充電ポートの統一	20
コスモス・コーポレーション: 自動車部品の耐久試験についてのご案内	39
社長の独り言	49



IEC: 電動車両におけるバッテリーの安全性の重要性: e-tech 情報

- 電動車両(EV)市場は成長を続けており、乗用車の新車登録台数の25%が2024年に電気駆動式となり、全世界での販売台数は1,700万台を超えると予測されている。EVバッテリーの安全性と性能確保のため、IECはIEC 62660シリーズなどの国際規格を発行している。バッテリーのセカンドライフも注目され、使用済みバッテリーのエネルギー貯蔵への再利用が進められている。IECEEでのバッテリーや充電システムの試験・認証などの適合性評価は、EVの安全性と性能を確保する上で重要な役割を果たしている。

IEC: EU: 欧州機械規制 2023/1230 は取扱説明書のデジタル化オプションを提供

UNECE: ペダルの踏み間違い、電動車両向けの新世代ブレーキシステムの導入を先導する

UNECE: 車両規制の調和に関する世界フォーラム第193回報告書が発行(1/2)

- 車両規制の調和に関する世界フォーラム第193回会合が、ジュネーブにて、2024年6月25~28日に開催された。報告書ECE/TRANS/WP.29/1179が、2024年7月10日付けで発行された。今回本稿に示すようにいくつかの規制の修正、訂正、又は新規発行がなされた。

USA: FCC: 自動車安全スペクトラム規則を採決へ: C-V2X 技術を、5.9 GHz 帯域で運用

- 米国連邦通信委員会(FCC)は、交通安全とモビリティ向上のため、自動車やインフラに高度通信技術を組み込む最終規則を採決すると発表した。この規則により、自動車と道路インフラ間の直接通信を可能にするC-V2X技術が、5.9 GHz帯域で運用できるようになり、安全技術の進歩とワイヤレス経済の成長が期待される。

EU: 持続可能な製品のエコデザイン規制(ESPR)発効: 持続可能な製品が消費者の標準となる

- 2024年6月13日付けのコデザイン要件の設定の枠組みを確立する欧州議会および理事会規制(EU) 2024/1781が、2024年6月28日に発行された。
- 本規制(ESPR)は、製品に対するエコデザイン要件を設定することを可能にする。その結果、製品の寿命が長くなり、修理やリサイクルが容易になり、問題のある化学物質が少なくなり、リサイクル材料が増えることになるだろう。EUでは初めて、ESPRの規制対象となるすべての製品に対して、新たなデジタル製品パスポート要件が導入される。

中国: CNCA: 電動自転車用リチウムイオン電池及び充電器の強制性製品認証管理 CCC の実施

- 中国国家市場監督総局(SAMR)は、電動自転車用リチウム蓄電池と充電器に対して強制認証(CCC認証)管理を実施する。2024年10月15日から、指定の認証機関はCCC認証申請を受け付け、適用規格に基づき認証業務を行う。2025年11月1日からは、CCC認証を取得し認証マークを貼付した製品しか出荷、販売、輸出できなくなる。

国土交通省: 自動運転車の安全ガイドラインやEV等のバッテリー耐久性能の国連基準を合意



Summary

電動車両(EV)市場は成長を続けており、乗用車の新車登録台数の25%が2024年に電気駆動式となり、全世界での販売台数は1,700万台を超えると予測されている。EVバッテリーの安全性と性能確保のため、IECはIEC 62660シリーズなどの国際規格を発行している。バッテリーのセカンドライフも注目され、使用済みバッテリーのエネルギー貯蔵への再利用が進められている。IECEE(電気技術機器及び部品に対する適合性評価スキームのIECシステム)でのバッテリーや充電システムの試験・認証などの適合性評価は、EVの安全性と性能を確保する上で重要な役割を果たしている。

電動車両におけるバッテリーの安全性の重要性

Clare Naden 氏 2024年4月23日

[減速の懸念](#)にも拘わらず、電動車両(EV)の世界市場は成長し続けると予測されている。EVバッテリーの安全性と性能は、EVの成長にとってそして気候目標に貢献するためのEVの能力にとって必要不可欠である。

電動車両の分野と同じくらいダイナミックな産業は、クリーンエネルギー分野ではわずかしかない。[ユーロモニタインターナショナル](#)によると、乗用車の新車登録台数の25%が2024年に電気駆動式となり、全世界での販売台数は1,700万台を超えると予測されている。これは、国際エネルギー機関(IEA)による2022年の1,000万台以上、2023年の1,400万台の販売台数予測を上回っている。



さらに、EV車の総保有台数(2輪/3輪車を除く)は、2022年の約3,000万台から2030年には[2億4000万台](#)まで拡大すると予測されている。

これは地球にとって朗報である。EVの使用が増加すると道路輸送からの排出量を削減する一助となるためである。道路輸送は、IEAによれば、世界の[エネルギー関連排出量の15%](#)以上を占めている。

バッテリー電源

EVがもっと多く受け入れられるには、その安全性、性能、安価な価格を確保する必要があり、そのためにバッテリーが重要な役割を果たしている。

IECは、EVが確実に安全に作動し、電力網に接続されるよう、EV技術を支援するための幅広い国際規格を発行している。IEC適合性評価制度と組み合わせることで、国際規格は、バッテリーを含むすべての部品の相互運用性や安全機能の確保に貢献している。

EVの大部分はリチウムイオン電池で駆動しており、その価格はより安くなり、より多くのエネルギーを蓄えられるようになってきた。とはいえ、よく知られている欠点が未だ数多くある。すなわち、時間の経過とともに電池の性能が低下すること、そして使用が不可能になった後はリサイクルが複雑なことである。さらに、リチウム、コバルト、ニッケルなど、新しい電池を作るために必要な重要鉱物を採掘することで環境に影響を及ぼす懸念がある。

[IEC TC 21](#)は、EVの推進のための2次リチウムイオン電池に関する[IEC 62660](#)シリーズを含む、リチウムイオン電池の国際規格を発行している。3部構成のシリーズで、性能試験、信頼性試験、安全要件を扱っている。

安全第一

国際的試験、検査、監査、認証サービスプロバイダーである[TÜV SÜD](#)のサステナブルテクノロジー



株式会社コスモス・コーポレイション

自動車部品の耐水試験についてのご案内

当社では自動車部品に対する耐水試験が実施可能です。

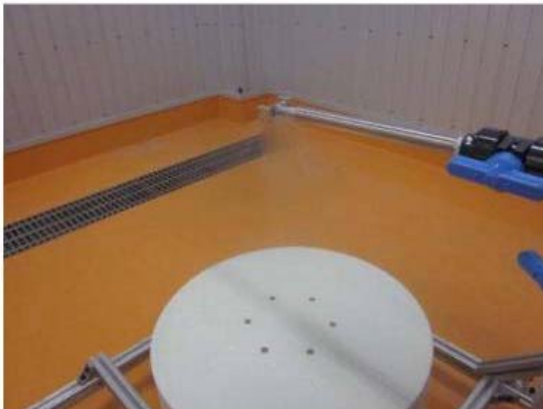
(JIS D 0203 対応)

対象試験記号: R1 / R2 / S1 / S2

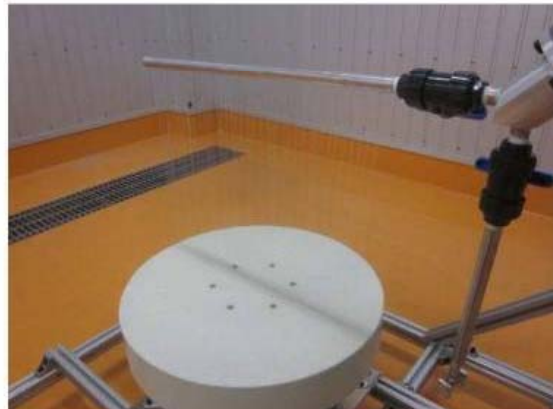
評価実施内容

散水試験	R1・・・ 水滴に触れることのある部品の機能を調べる試験
	R2・・・ 間接的に風雨又は水しぶきを受ける部品の機能を調べる試験
噴水試験	S1・・・ 直接風雨又は水しぶきを受ける部品の機能を調べる試験
	S2・・・ 強い受水状態について部品の機能を調べる試験

R1 及び R2



S1 及び S2



耐荷重: 45kg まで試験実施可能です。

許容サンプルサイズ: 実施可能サンプル寸法は規格に従い、基本的に 40cm の高さで設定していますが、それ以上の寸法であっても対応可能な場合もございますので、指定のサンプルサイズを事前にご連絡下さい。

松阪事業所 : 〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718-1

URL : www.safetyweb.co.jp E-mail : sales@cosmos-corp.com

【お問い合わせはCS部まで -- TEL:0598-30-5225(直通), FAX:0598-30-5571】

株式会社コスモス・コーポレイション

社長の独り言

2024年7月16日
濱口 慶一

梅雨なのか？真夏なのか？分かりにくい最近ですが、皆様は体調を崩さずに業務に邁進されていることを祈念致します。

最近、お客様回りをしていますが、どうも特定の同業者から言われたのでしょうか、“濱口の技術指導は認証機関として、ISO/IEC 17065で禁止されているコンサルティングにあたるのでは”というご意見を聞く事があります。コンサルティング業務に関しては、“ISO/IEC 17065:2012 (JIS Q 17065:2012) 製品認証機関に対する要求事項: 解説と適用ガイド” (監修: ISO/IEC 17065 対応 WG、編集委員長: 住本守氏)の18ページにある“(2) コンサルティング”に抵触しないように進めてまいります。監督省庁の経済産業省と厚生労働省の担当の方にも機会あるごとに見解を仰いで、登録検査機関や登録認証機関として、法令遵守の精神で進めて参ります。その一方で、他機関への認証案件に対する技術相談は大いに進めていきたいと思っておりますので、何なりとご用命下さい。

長岡科学技術大学でお世話になった教授の方々には、今でもいろいろとご指導を受けています。同大学の教授陣の素晴らしいところは、経済産業省出身の方がいくつかの組織で実践を学んで教授になられた方が多いことです。教授の言葉の節々に、国家の思いが見えてくるように思えたのを、修了後の今でも思い出します。国が若い技術者のために折角開設してくれた学部ですので、多くの製品安全技術者を目指している若人が、この大学の同じ修士課程に入学されることを願っています。そういう意味で、製品安全・機械安全に関わるスタッフをお持ちの企業を経営されている方々には、そのスタッフの方が希望されるなら、学費などの援助を是非お願いします。また長岡科学技術大学の方も、少しでも向学心のある若者が入学出来るように採用枠を広げていただきたいです。私のように工業高校卒業の方で、同大学の受験に不安がある方がおられましたら、メールでお問い合わせ下さい。合格のために私の経験からアドバイスできることがあれば惜しみなくお伝えしたいと思っております。

一橋大学の江藤学先生も話しておられますが、日本の技術者を若いうちからIECやISO等の組織へ送り、規格作成に関わらせて、日本企業に有利な規格作りに参加させることが大切であり、特に近年間際になった高齢者が参加していくよりも、30代の若い技術者を送るべきだと言われております。私も経営者として、希望する社員が大いに世界に打って出ていけるように、製品安全工学技術者を輩出できるシステムを構築していきたいと考えています。

趣味の日本ミツバチの養蜂ですが、2群が元気で蜜を集めていますが、1群はいなくなりました。私の管理ミスだと思います。巣箱の拡張と貯蓄蜜を削減していなかったために、分蜂やスムシなどの発生で住みにくくなって逃げてしまったのではと思います。次の良い住まいを見つけてくれると良いのですが。

梅雨が明け、本格的な夏になりますが、体調を崩さないよう気をつけて頑張りましょう。

- ニュースレターの内容

本誌は、EMC、安全、及び省エネ (EMC, Safety and Energy Conservation) 分野に係り、世界の主要機関/地域により実施されかつ電気電子製品デバイスに適合が求められている規格/法規制について、その関連情報を、お届けいたします。

重要情報を幅広く調査、収集、かつ、要約して掲載し、当該分野の最新情報、潮流をすばやく捉えることができるようにいたします。情報源を明示しますので、貴殿の関心により、更に深い調査が可能です。

本誌は各国への技術法規適合製品を試験 認証 開発 管理される部門の方にとり必読の内容です。

- 対象機関/地域: IEC 等国際機関、並びに、FCC, UL を含む米国、EU 及び UK, CENELEC, CEN を含む欧州、その他オセアニア、及び日本を含むアジアの各地域

- 情報源: カバー対象の機関、地域の Web site、或は情報サービス。又、ご協力のご同意を頂いた日本国内及び米国・欧州・中国・韓国・台湾などの当該分野権威者から提供された情報。

- 本誌購読のお申し込み方法

コスモス・コーポレーション CS 部 (カスタマーサービス部) まで Yamashita-jun@cosmos-corp.com
Tel 0598-30-5225 Fax 0598-30-5571

- 発行: 年間 11 回発行。各号 A4 版、40 ページ前後。

- 価格: 各号 2,000 円 (年間購読の場合 1 年 11,000 円)(消費税込)

- 本誌の内容案内、ご購入案内は、<https://www.safetyweb.co.jp/services/other/publication/>

本誌の記事が正確であるよう最大の努力を払っておりますが、間違いが含まれていることがあるかもしれません。本情報をご使用になられる場合はご自身でもう一度ご確認ください。

株式会社コスモス・コーポレーションは、下記 Web site の運営体からそれぞれ個別の条件の下、Web 情報の引用、転載につき許可を頂いております。翻訳転載された記事の著作権は著作権者に属します。本誌掲載記事の無断転載を禁じます。本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。

国際機関	IEC: International Electro technical Commission	国際電気標準会議
米州	A2LA: American Association for Laboratory Accreditation	米国試験所認定協会
	ANSI: American National Standards Institute	米国規格協会
	FCC: Federal Communications Commission	連邦通信委員会
	IEEE: Institute of Electric and Electronics Engineers	米国電気電子学会
	CSA: Canadian Standards Association	カナダ規格協会
欧州	CENELEC: European Committee for Electro technical Standardization	欧州電気技術標準化委員会
	ECO: European Communications Office	欧州通信オフィス
	ETSI: European Telecommunications Standards Institute	欧州電気通信標準協会
	EU/EC: European Union/European Commission	欧州連合/欧州委員会
オセアニア	ACMA: Australian Communications and Media Authority	オーストラリア通信/メディア局
	NZ: New Zealand Government Radio Spectrum Management	ニュージーランド政府 RSM
アジア	BSMI: Bureau of Standards, Metrology & Inspection	台湾經濟部標準檢驗局
	CNS: Chinese National Standards Online Service	台湾中国国家規格検索システム
日本	METI: Ministry of Economy, Trade and Industry	経済産業省
	MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
	NPB: National Printing Bureau	独立行政法人国立印刷局
	VCCI: Voluntary Control Council for Interference	一般財団法人 VCCI 協会

Cosmos Corporation is granted the copyright authorization for the reproduction of the Web site information from the above listed organizations with the individual condition. Further use, modification, redistribution of the information on the Cosmos Newsletter on EMC & Safety is strictly prohibited.

コスモス ニュースレター EMC & 安全 (Cosmos Newsletter on EMC & Safety) 2024-08-01 (No. 166)

発行所: 株式会社 コスモス・コーポレーション 本社・松阪事業所

住所: 〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地 1

ホームページ: <https://www.safetyweb.co.jp/>

発行人: 濱口慶一

編集人: 倉品光雄 iNARTE 認定 Certified EMC Engineer (EMC-002315-NE)

© 2024 株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。